

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：34416

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2017

課題番号：26570014

研究課題名(和文) 途上国中山間地域の内発的発展～ブータンにおける地元学手法導入アクション・リサーチ

研究課題名(英文) Endogenous Development in Mountainous Communities in Developing Countries:
Action Research on Neighborhood Study Method in Bhutan

研究代表者

草郷 孝好 (Kusago, Takayoshi)

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：30308077

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近代化が急速に進むブータンにおいて、ブータンの若い世代がブータン社会の特質を生かした近代化の担い手となることを支援するアクションリサーチである。ブータンの若者の力づけを支援するBhutan Media and Democracyとブータン王立大学と共同で、水俣市で開発された内発的発展を促進する「地元学手法」によるコミュニティマッピングプロジェクトを2つの村で行い、アクションリサーチに関する研究論文や書籍作成、学会報告を行った。

研究成果の概要(英文)：This research is action research to support the younger generation of Bhutan becoming initiators of modernization with the characteristics of Bhutanese society where modernization rapidly progresses. In collaboration with Bhutan Media and Democracy and the Royal University of Bhutan, we conducted a community mapping project in two Bhutanese villages by "neighborhood study method" developed in Minamata City. The method promotes endogenous development. This research project has produced research papers and book chapters and made presentations in academic meetings.

研究分野：開発学

キーワード：地元学 内発的発展 アクションリサーチ ブータン

1. 研究開始当初の背景

ブータンは、2008年に絶対王政から立憲君主制に移行し、着実に近代化を遂げてきた。しかし、近代化のペースが速く、農村部から都市部への若者の流出が増加の一途である。若者世代が減少すると、ブータンの中山間地域において、持続的社会的実現が徐々に困難になっていく。そこで、若者世代にブータン農村部の地域コミュニティの持つ魅力を見いだしてもらい、内発的地域コミュニティの発展の担い手を育成することが急務であるとされている。そこで、都市部で生活する大学生に着目し、大学生自身が直接、農村部の地域コミュニティに足を運ぶことで農村部に対する意識変革と行動変容を促す実践的研究手法が求められている。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、急速な近代化が進む中、高等教育の機会や就業目的のため、農村部から都市部に移動する若者に対し、新しい技術や知識を獲得することと同時に、ブータン社会の持つ地域資源に気づく機会を与えることで、知に足の着いたブータン社会の近代化につなげていく担い手の育成を目的とする。

(2) ブータンのNPO、大学との連携体制を構築し、実践的研究手法(アクションリサーチ)の開発と普及の可能性を検証することを目的とする。

(3) ブータンの高等教育において、アクションリサーチ手法の認知度を高め、ブータンの高等教育にアクティブラーニング全般への関心を高めることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) ブータンの近代化の現状に関する文献研究を行い、その上で、社会的調査法の1つであるアクションリサーチを実施することとした。アクションリサーチ手法は、ブータンの若者の参画により、ブータン山間部の村で地元学手法をベースにしたコミュニティマッピングプロジェクトを活用した。若者に対する地元学アクションリサーチ参画の効果把握するため、プロジェクト参加前後の農村開発に対する意識変化に関する調査を組み込むこととし、プロジェクトの成果を把握することとした。

(2) 本プロジェクトの協働パートナーとして、コミュニティマッピングを展開しているブータンのNPOであるBCMD(Bhutan Centre for Media and Democracy: ブータンメディア・民主主義センター)を選定した。

(3) パイロットプロジェクト地域選定

本パイロット調査実施対象地域については、都市近郊と農山村部という異なる生活圏に着目し、各々の地域特性を代表する地域の

選定を進めた。

近年、道路が整備されたことで都市との接続が容易になったKabjisa村(首都ティンブー市から、車でおよそ1時間)と農山村地域にあるプナカ県のGemkha村(ティンブー市から、車でおよそ4時間)を選定した。Kabjisa村におけるパイロットプロジェクトでは、同村の中学校を訪問、2度の試行プログラムを計画した。コミュニティマッピング参加の学生は、ティンブー市にある私立大学RTC(Royal Thimphu College)の学生とし、Kabjisa中学校の生徒、村人とともに、コミュニティマッピングを計画した。また、急速に都市への人口流出が増加しているブータンの農山村部に位置するGemkha村を選定し、パイロットプロジェクトを計画した。同村に近い王立大学RUB(Royal University of Bhutan)のCollege of Natural Resources(天然資源大学)の学生(大学生、大学院生)の参加を得て、BCMDと協働で、パイロットプロジェクトを計画した。

4. 研究成果

(1) Kabjisa村とGemkha村における地元学を応用したコミュニティマッピングパイロットプロジェクトに参加した学生の農村地区への意識変化は目覚ましいものがあった。たとえば、環境に配慮した生活を営む村人の知恵を大学で学ぶ環境学の理論と結び付けて評価していた。また、学生は、都市化の進むブータンにおいて、農村部の維持をどうすべきかを考えるようになった。プロジェクト参加前には、村の価値を見いだせなかった学生が、参加後に、村の価値に気づいてくれた。村人を対象とし、学生グループによるコミュニティマッピング成果のフィードバックセッションを開催したところ、試行プロジェクトを受け入れた学校や村人にとっても、都会で勉強する学生が見出してくれた村の価値、とりわけ、村人の暮らしの価値を直接知ることができたのが、大きな刺激になっていた。今後の村づくりの起爆剤となる可能性を見いだすことができたのが収穫である。

(2) ブータンという日本とは異なる社会において、国内の地方創生の有力なツールとして活用されている地元学手法の有効性を確認できた。これによって、地元学は国内外で活用できる実践的・地方活性化手法となりうる可能性が明らかになった。

(3) 地元学とコミュニティ・マッピングについての公開セミナーを2回ブータンにおいて開催した。上院議員を含む40名の参加者を得ることができ、地元学と地域開発モデルについて、ブータンにおける農村活性化の必要性和地元学手法を掘り下げながら、意見交換することができ、ブータンの政策形成にも寄与することができた。

(4) ブータンの NPO との協働研究の経験は、民主化時代のブータンにおいて増加する社会問題に取り組む NPO の組織強化につながる端緒をつけた。

(5) アクションリサーチ(実践的研究)をローカルニーズにマッチした形で展開することは、社会科学分野の社会実装機能促進につながる事が確認できた。

(6) アクション・リサーチの手法に関する知見を集約し、国内の研究者との実践共有を行うことができた(2018年に書籍を刊行した)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計12件)

草郷孝好(2017)「住民主導の地域社会改善の仕組み創り」オペレーションズ・リサーチ 62巻 287-292. 査読有

KUSAGO, T and S.HIRAI (2017) "The evolutionary path of the 21st Hyogo Long-term Vision Project in Japan: community development, resilience and well-being," Community Development Journal, 52(1) 160-170. 査読有

早川有香・鈴木政史・草郷孝好・蟹江憲史・原圭史郎・上須道徳・池田和弘・井口正(2016)「ユースの視点に基づく持続可能な開発の課題に関する一考察-大学生及び大学院生によるワークショップを事例として」上智地球環境学会『地球環境学』No.11, 171-182. 査読無

草郷孝好(2015)「市民主導の地域社会構築とアクション・リサーチ」人間福祉学研究 8(1) 27-40. 査読無

草郷孝好・豊田尚吾(2015)「なぜ、いま、「幸福感」なのか?」情報誌 CEL110 巻、2-7. 査読無

SUZUKI, M., K. IKEDA, T. KUSAGO, K. HARA, M. UWASU and O. TYUNINA(2015) "Analysis of Citizens' Priorities over Sustainable Development Goals in Japan: Evidence from a Questionnaire Survey," Global Environmental Research 19(2) 155-164. 査読有

草郷孝好(2015)「幸せ社会のつくり方」季刊社会運動 420巻、176-187. 査読無

草郷孝好(2015)「コミュニティ・マッピングでブータンの若者と探るブータンの魅力」ブータンミュージアム通信 11巻 8-11. 査読無

KUSAGO, T. (2015) "Changer de modele de development: une responsabilite collective autour de la vraie richesse d' une sagesse pratique," Croniques de la gouvernance, 171-178. 査読有

草郷孝好(2015)「市民主体の地域発展指標の開発と活用」関西大学経済・政治研究所セミナー年報 2014年度 149-162. 査読無

草郷孝好(2015)「地方自治体の幸せ社会構築の取り組みに見るアクション・リサーチ」関西大学経済・政治研究所セミナー年報 2014年度 103-121. 査読無

草郷孝好・宮本匠(2014)「住民主体の災害復興に資する地域生活改善プロセス評価手法の有効性」日本災害復興学会論文集 6巻 22-31. 査読有

[学会発表](計5件)

KUSAGO, T. (2016) "Action Research for Citizen-Based Community Development: A Collaborative Project on Well-Being City of Nagakute in Japan," The Community Development Society & International Association for Community Development Annual International Conference 2016, Bloomington, Minnesota, USA.

KUSAGO, T. (2016) "Neighborhood Study Method (JIMOTOGAKU) for Community Development: A Place-based Collaborative Action Research," 2016 HDCA Annual Meeting, Hitotsubashi University, Tokyo, Japan.

KUSAGO, T. and T. MIYAMOTO (2016) "The Potential and Effectiveness of a Community-based Process Evaluation Method for long-term disaster recovery in Kizawa, Niigata, Japan," 2016 HDCA Annual Meeting, Hitotsubashi University, Tokyo, Japan.

KUSAGO, T. (2015) "Local initiatives for improvement of people's well-beings in Japan: Can local governments collaborate with local people?," International workshop improving the people's lot? Different conceptions of well-being between promises and reality, German Institute for Japanese Studies (DIJ), Tokyo, Japan.

KUSAGO, T. (2015) "Evolutionary Path of the Hyogo Vision Project and the Hyogo Well-Being Index in Japan," 13th International Society for Quality-of-Life Studies Conference, Phoenix, Arizona, USA.

[図書](計2件)

草郷孝好編著(2018)「市民自治の育て方～協働型アクションリサーチの理論と実践～」関西大学出版部 全161ページ
草郷孝好他(2018)「市民自治力向上とアクション・リサーチに関する研究II」関

西大学経済・政治研究所「調査と資料第
116号」4-111ページ
草郷孝好他(2016)「市民自治力向上とア
クション・リサーチに関する研究」関西
大学経済・政治研究所「調査と資料第114
号」224-327ページ

6. 研究組織

(1) 研究代表者

草郷 孝好 (KUSAGO, Takayoshi)

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：30308077